

2015年度 教育開発・支援センター 自己点検・評価報告書

基準 1 理念・目的

点検・評価項目 ◎…法令等の充足を評価する項目です。 ●…学部等が掲げる方針や目標の達成状況を評価する項目です。	現状の説明 C列の点検・評価項目について、必ず記述してください	評価		発展計画	
		効果が上がっている点 F列の現状から記述	改善を要する点 F列の現状から記述	「効果が上がっている点」に対する発展計画 G列における伸張項目	「改善を要する点」に対する発展計画 (当年度・次年度対応) H列にあれば記述
(1) 付属機関等の理念・目的は適切に設定されているか					
a ◎高等教育機関として大学が追及すべき目的（建学の精神、教育理念、使命）を踏まえて、当該付属機関・委員会の理念・目的を設定していること。 【約500字】	センターは、「明治大学教育開発・支援センター規程」第2条において、本大学の教育理念及び教育目標を実現するため、全学的な教育支援体制に係る諸施策の立案及びその推進を図るとともに、組織的かつ継続的に教育内容及び教育技法の改善を行うことにより、効果的な教育活動の実践を支援・促進し、もって本大学の教育の発展に寄与することを目的とすることを規定している。				
(2) 付属機関等の理念・目的の適切性について定期的に検証を行っているか					
a ●理念・目的の適切性を検証するに当たり、責任主体・組織、権限、手続きを明確にしているか。また、その検証プロセスを適切に機能させているか。 【約300字】	「明治大学教育開発・支援センター規程」第3条において業務範囲を、第4条から第12条において、組織構成及び議決手順を定め、理念・目的に沿った適切な執行を行っている。また、毎年実施している自己点検・評価で、その適切性の検証を行っている。2015年度は、5月14日開催の教育開発・支援センター運営委員会で検証し、2015年度計画書には、「国際教育プログラム」、「国際協力人材育成プログラム」の検証プロセスや授業改善アンケートの回答率向上等の課題を反映した。				

2015年度 教育開発・支援センター 自己点検・評価報告書

基準 2 教育研究組織

点検・評価項目 ◎…法令等の充足を評価する項目です。 ●…学部等が掲げる方針や目標の達成状況を評価する項目です。	現状の説明 C列の点検・評価項目について、必ず記述してください	評価		発展計画	
		効果が上がっている点 F列の現状から記述	改善を要する点 F列の現状から記述	「効果が上がっている点」に対する発展計画 G列における伸張項目	「改善を要する点」に対する発展計画 (当年度・次年度対応) H列にあれば記述 (中長期的対応) H列にあれば記述
(1) 付属機関等の教育研究組織は、理念・目的に照らして適切なものであるか					
a ①教育研究組織の設置状況は理念・目的に照らし、適切であるか。学術の進展や社会の要請と教育との適合性について配慮したものであるか。 ●教育研究組織は、当該大学の理念・目的を実現するためにふさわしいものであるか。 【約300字】	高等教育を取り巻く環境は一層変化し、大学に求められる教育ニーズも多様化・高度化している。これらの要請に応えるためには、個々の教員レベルだけではなく、大学・学部・大学院レベルでの教育改革を進展させる必要がある。そのためにも効果的な学習・教育活動が展開できるように支援する事が重要であり、適切である。 また、「明治大学教育開発・支援センター規程」において、センターの運営に関して、必要な事項を審議するため、センターに運営委員会を置いており、さらにセンター長が必要と認めるときは、運営委員会の下に専門部会を設置することができることとしている。このことにより、機動力をもった諸施策の立案及びその推進を可能としている。				
(2) 付属機関等の教育研究組織の適切性について、定期的に検証を行っているか					
a ●教育研究組織の適切性を検証するにあたり、責任主体、組織、権限、手続きを明確にしているか。 ●その検証プロセスを適切に機能させて、改善に結びつけているか。 【約500字】	毎年、自己点検評価を行っており、センター組織のあり方が適切かどうか検証している。検証した結果、明確になった課題について、年度計画書の作成時に反映させている。2015年度は、5月14日開催の教育開発・支援センター運営委員会で検証し、2015年度計画書には、「国際教育プログラム」、「国際協力人材育成プログラム」の検証プロセスや授業改善アンケートの回答率向上等の課題を反映した。				

2015年度 教育開発・支援センター 自己点検・評価報告書

基準 3 教員・教員組織

点検・評価項目 <small>◎…法令等の充足を評価する項目です。 ●…学部等が掲げる方針や目標の達成状況を評価する項目です。</small>	現状の説明 <small style="color: red;">0列の点検・評価項目について、必ず記述してください</small>	評価		発展計画		
		<small>効果が上がっている点 F列の現状から記述</small>	<small>改善を要する点 F列の現状から記述</small>	<small>「効果が上がっている点」に対する発展計画 G列における伸張項目</small>	<small>「改善を要する点」に対する発展計画 (当年度・次年度対応) H列にあれば記述</small>	<small>(中長期的対応) H列にあれば記述</small>
(1) 教員の資質の向上を図るための方策を講じているか						
教員の教育研究活動等の評価の実施						
a ●教員の教育研究活動の業績を適切に評価し、教育・研究活動の活性化に努めているか。 【400字】	教育開発支援センターでは、本学における教員評価のあり方を探りながら、FD・教育評価専門部会で検討を行っている。2015年度は開催しなかったが、今後、必要に応じて専門部会を開催する。					
教員の資質向上のための研修・諸活動（FD）の実施状況とその有効性						
b ●教育研究、その他の諸活動（※）に関する教員の資質向上を図るための研修等を恒常的かつ適切に行っているか。 <small>(※) 社会貢献、管理業務などを含む『教員』の資質向上のための活動。 授業改善アンケートの活用など『授業』の改善を意図した取組みについては、「基準4」（3）教育方法で評価します。 【600字】</small>	教育開発支援センターのFD・教育評価専門部会が責任主体として「新任教員研修会」を年2回開催しており、2015年度は第1回に51名が出席し、第2回は39名の出席があった。なお、本研修会においては参加者に自由記述アンケートを取っており、その回答内容を集約し、主催した教育開発支援センター委員会で共有を図っている。 また、2016年1月12日には、100分授業導入に係る授業方法研修会を実施し、各学部の教務主任を中心に47名の出席があった。		今後は、新任教員以外にも参加できるような研修会、講演会を開催する。			

2015年度 教育開発・支援センター 自己点検・評価報告書

基準 4 教育内容・方法・成果 2. 教育課程・教育内容

点検・評価項目	現状の説明	評価		発展計画	
◎…法令等の充足を評価する項目です。 ●…学部等が掲げる方針や目標の達成状況を評価する項目です。	C列の点検・評価項目について、 必ず記述してください	効果が上がっている点 F列の現状から記述	改善を要する点 F列の現状から記述	「効果が上がっている点」 に対する発展計画 G列における伸張項目	「改善を要する点」に対する発展計画 (当年度・次年度対応) H列にあれば記述
(1) 教育開発・支援セッターの授業科目は体系的に編成しているか					
順次性のある授業科目の体系的配置（履修体系図やコース系統図の明示、科目相関図、4年間の履修モデル、適切な科目区分など）					
c ●教育課程の編成実施方針に基づいた教育課程や教育内容の適切性を明確に示しているか。（学生の順次的・体系的な履修への配慮） 【約400字】	教育開発・支援センターの教育の国際化専門部会は「国際教育プログラム」を運営している。各学部設置された英語による授業科目である「基幹科目」と各学部の国際関係科目（日本語）を活用した「選択科目」によって構成しており、配当年次と科目分類により段階的に履修することを明示している。また基幹科目・選択科目はそれぞれ「異文化理解（分類1）」「文化・歴史（分類2）」「法律・政治（分類3）」「経済（分類4）」の科目群に体系化され、基幹科目12単位以上（GPA2.5以上）、選択科目18単位以上を修了要件としてプログラムの修了認定を行っている。 また、「国際協力人材育成プログラム」において、体系的な履修の目安とする為、全科目にナンバリングを付した。プログラムには修了要件があり学生に提示している。 全学共通科目として配置している「グローバル人材」の育成を行う4つの全学部共通プログラム（「国際協力人材育成プログラム」、「日本ASEAN相互理解プログラム」、「グローバル人材育成プログラム」、「国際教育プログラム」）を軸に全学的なグローバル人材を育成する取組みを紹介する冊子「GLOBAL NAVI」を2014年度4月1日から発行している。 「GLOBAL NAVI」は冊子のみならず、ホームページにおいても公開しており、学生の履修を促すとともに、学外へ取組みを情報を発信している。紹介ページを公開しながら、4つの全学部共通プログラム（「国際協力人材育成プログラム」、「日本ASEAN相互理解プログラム」、「グローバル人材育成プログラム」、「国際教育プログラム」）を実施している。				
教育課程の適切性の検証プロセスの明確化とその有効性					
d ●教育課程の適切性を検証するにあたり、責任主体・組織、権限、手続を明確にしているか。また、その検証プロセスを適切に機能させ、改善につなげているか	「国際教育プログラム」、「国際協力人材育成プログラム」の検証プロセスについて、教育開発・支援センターの「教育の国際化専門部会」が責任主体となり、履修状況等の実績を勘案し、教育課程全般にわたる改善や次年度の授業計画の方針について定めている。				

2015年度 教育開発・支援センター 自己点検・評価報告書

基準 4 教育内容・方法・成果 2. 教育課程・教育内容

点検・評価項目	現状の説明	評価		発展計画	
◎…法令等の充足を評価する項目です。 ●…学部等が掲げる方針や目標の達成状況を評価する項目です。	C列の点検・評価項目について、 必ず記述してください	効果が上がっている点 F列の現状から記述	改善を要する点 F列の現状から記述	「効果が上がっている点」 に対する発展計画 G列における伸張項目	「改善を要する点」に対する発展計画 (当年度・次年度対応) H列にあれば記述
(2) 教育開発・支援センターの主催する授業科目は相応しい教育を提供しているか					
教育目標や教育課程の編成・実施方針に沿った教育内容(何を教えているのか)					
a ◎何を教えているのか。どのように教育目標の実現を図っているのか。 【400字程度】	<p>「国際教育プログラム」の教育内容は、国際文化、国際関係法、国際政治及び国際経済等の理解を深めることであり、これらの科目は英語で実施する科目(基幹科目)と、日本語で実施する科目(選択科目)に分類されている。なお、本プログラムを設置する目的は、これからの日本社会には単なる語学力だけではなく、全てにおいて地球規模で考察し活動できる人材が求められおり、このような背景の中、世界的視野を持ち、国際舞台で活躍する人材を育成するためである。国際教育プログラムは2007年度から開設しているが、プログラムの修了者は2015年度までに2名輩出した。</p> <p>また、「国際協力人材育成プログラム」は2段階(パス)を設けており、教育目標はグローバル共通教養を自らの言葉で表現することが出来る能力を身につけ(モチベーション・パス)、国際公務を目標の頂点とする国際協力人材を自らデザインできる人材を輩出する(キャリア・パス)ことである。</p> <p>「国際協力人材育成プログラム」は平成24年度文部科学省選定「大学間連携共同教育推進事業」に採択された取組みである。このプログラムは国際協力・国際公務への志向を持つ学部生が多く在籍する2大学(明治大学、立教大学)と国際社会で活躍する高度な専門的知識を持った職業人の育成を企図する大学院大学(国際大学)が協働し、正課教育において、全て英語を用いた講義で展開している。</p>				

2015年度 教育開発・支援センター 自己点検・評価報告書

基準 4 教育内容・方法・成果 3. 教育方法

点検・評価項目	現状の説明	評価		発展計画	
◎…法令等の充足を評価する項目です。 ●…学部等が掲げる方針や目標の達成状況を評価する項目です。	C列の点検・評価項目について、 必ず記述してください	効果が上がっている点 F列の現状から記述	改善を要する点 F列の現状から記述	「効果が上がっている点」 に対する発展計画 G列における伸張項目	「改善を要する点」に対する発展計画 (当年度・次年度対応) H列にあれば記述
(1) 教育開発・支援セッターにおける授業科目の教育方法は適切か					
教育目標と授業形態（講義科目、演習科目、実験実習科目、校外学習科目等）との整合性					
a ◎当該付属機関の教育目標を達成するために必要となる授業の形態を明らかにしていること 【約800字】	目的である効果的な教育活動の実践を支援・促進するため、国際教育プログラムでは主に講義形式で行う英語授業「基幹科目」及び日本語授業「選択科目」並びに国際文化、国際関係法、国際政治及び国際経済で分類し、学生のレベルや興味に即した授業を提示している。 国際協力人材育成プログラムは、オムニバス講座「グローバル・イシュー各論」と、「グローバル共通教養総論」により、諸問題を包括的・体系的に把握する俯瞰力を養う。これらは、学生の趣向に合わせて総論と各論いずれからのアプローチが可能な仕組みとするため、前期・後期をたすき掛けで開講し、相互補完・充実を図る。その後、1主題を5回、合計3主題で構成するオムニバス講座「ソリューション・アプローチ」により、キャリアへの方向性の模索を行う。当該科目は、学生の興味とキャリアへの方向性の模索を行うものであるから、テーマごとに明治大学又は立教大学で開講し、学生に組み合わせの選択をさせることとする。 国際大学の大学院生（各国政府現役官僚等の留学生）をTAとして配置し、終日、英語環境でプレゼン、ディスカッションといったコミュニケーション力を養う「国際協カリテラシー（集中講義）」と、少人数（ゼミナール形式）で個別のテーマへの理解を深めるために、フィールド・スタディなどを行う「アクティブ・リサーチ」を開講している。				
学生の主体的参加を促す授業方法（学習支援、TAの採用、授業方法の工夫等）					
e ●学生の主体的な学びを促す教育（授業及び授業時間外の学習）を行っているか。 【なし～800字】	国際教育プログラムは、英語を中心に授業を行う科目（基幹科目）と各学部設置している国際関係科目（選択科目）を二本の柱として、教育方法は主に講義形式で行い、基幹科目では平易な英語を使用し講義を展開する。なお、プログラムの修了要件を満たした学生には修了証を交付することとしているが、現在に至るまでプログラムの修了者が2015年度までに2名修了した。 国際協力人材育成プログラムは、修了要件を満たした学生には修了証を交付している。国際協力人材育成プログラムでは大学間連携による履修効果を高めるため、学生の学習成果の測定、学習経験の把握、教育方法の改善活動（FD）、連携大学の学生との意見交換などの取組みを実施するためのツールとして、eポートフォリオシステムを使用している。さらに、一部の科目にTAを採用し、授業の録画や学部講師のフォローを行っている。録画した授業はネットで配信しており、履修生が復習できるような環境を整えることで、英語による授業の理解度が向上する努めている。				

2015年度 教育開発・支援センター 自己点検・評価報告書

基準 4 教育内容・方法・成果 3. 教育方法

点検・評価項目 <small>◎…法令等の充足を評価する項目です。 ●…学部等が掲げる方針や目標の達成状況を評価する項目です。</small>	現状の説明 <small style="color: red;">0列の点検・評価項目について、必ず記述してください</small>	評価		発展計画		
		効果が上がっている点 <small style="color: red;">F列の現状から記述</small>	改善を要する点 <small style="color: red;">F列の現状から記述</small>	「効果が上がっている点」に対する発展計画 <small style="color: red;">G列における伸張項目</small>	「改善を要する点」に対する発展計画	
				(当年度・次年度対応) <small style="color: red;">H列にあれば記述</small>	(中長期的対応) <small style="color: red;">H列にあれば記述</small>	
(2) シラバスに基づいて授業が展開されているか						
a	◎授業の目的、到達目標、授業内容・方法、1年間の授業計画、成績評価方法・基準等を明らかにしたシラバスを、統一した書式を用いて作成し、かつ、学生があらかじめこれを知ることができる状態にしていること 【約300字】	シラバスの作成について、2010年11月16日開催教務部委員会で作されたガイドラインに従い、シラバスを作成している。また、学生指導期間において講座計画を配布し、学生は予め知る事ができる状態にしている。シラバスを統一した書式で作成し、シラバスに基づいた授業が展開されるよう指導している。				
b	●シラバスと授業方法・内容は整合しているか（整合性、シラバスの到達目標の達成度の調査、学習実態の把握）。 【約400字】	授業改善のためのアンケートに、シラバスの内容と実際の授業との整合性を確認する項目を設け、確認できる体制を採っている。				
c	●単位制の趣旨に照らし、学生の学修が行われるシラバスとなるよう、また、シラバスに基づいた授業を展開するため、明確な責任体制のもと、恒常的にかつ適切に検証を行い、改善につなげているか。 【約400字】	準備学習の内容をシラバスに明記している。国際協力人材育成プログラムは、教育開発・支援センターの他、立教大学及び国際大学との3大学並びに協定を締結しているステークホルダーによる協議会で授業の適切性について検証を行っている。				

2015年度 教育開発・支援センター 自己点検・評価報告書

基準 4 教育内容・方法・成果 3. 教育方法

点検・評価項目 ◎…法令等の充足を評価する項目です。 ●…学部等が掲げる方針や目標の達成状況を評価する項目です。	現状の説明	評価		発展計画	
	C列の点検・評価項目について、 必ず記述してください	効果が上がっている点 F列の現状から記述	改善を要する点 F列の現状から記述	「効果が上がっている点」に対する発展計画	
				(当年度・次年度対応) H列にあれば記述	(中長期的対応) H列にあれば記述
(3) 教育開発・支援センターにおける教育課程の改善、授業方法の改善に向けたFD活動について					
a ◎教育内容・方法等の改善を図ることを目的とした、組織的な研修・研究の機会を設けていること。 【約800字】	「教育開発・支援センター」に設置されている「FD・教育評価専門部会」にて、「学生による授業改善のためのアンケート」の実施を中心として授業改善に取り組んでいる。しかし、教育開発・支援センターに設置している「FD・教育評価専門部会」の開催が2015年度は一度も開催されなかった。今後専門部会について検証する必要がある。				
b ●授業アンケートを活用して教育課程や教育内容・方法を改善しているか。 【約400字】	「授業改善アンケート」は、毎年春学期と秋学期に1回ずつ、年2回実施しており、2015年度については、春学期は2,433科目、述べ1,216名の回答があり、秋学期は2,124科目、述べ1,142名の回答があった。アンケート結果は個々の教員の他、学部長宛に学部の集計結果を渡しているが授業改善への取組みは個々の教員に委ねられている。2012年度には、全学的な改善方策を検討するため、教務部長にアンケート結果が公開され、全学の視点で検証が行うことができるように実施要領を見直した。全体の集計結果については、本学ホームページに掲載し、公表を行っている。 2013年度からアンケートの質問項目を「学生満足度」を測る項目から、「学生の自主的な学びを引き出す授業になっているか」「学生に新しい知識、考え方を教授する授業になっているか」を検証できるように着目して、設問項目を変更している。分析方法については、学生が「講義を熱心に受講したか」「新たな知識や考えを得ることができたか」という設問と教授方法についての設問との相関係数を算出し、関係性の高い項目を並び替えて示すこととした。また各科目分類の集計平均値と担当科目の比較を数値化することで、教員の教授法について強みや弱みが分かりやすいように表示するよう工夫している。 「国際教育プログラム」は、設置科目を2つに分類しており、学部設置科目を国際教育プログラムとして取り扱う科目については各学部にて実施している。また国際教育プログラム専門科目は、授業改善のためのアンケートを実施しているが、分析は行っていない。				今後は、授業改善をより一層支援するために、授業改善アンケートを検証ツールとして、授業の改善につなげていけるようにする。
c ●教育内容・方法等の改善を図るための責任主体・組織、権限、手続プロセスを適切に機能させ、改善につなげているか 【約400字】	「国際協力人材育成プログラム」は、科目担当教員とのワーキンググループで科目の進め方を立教大学及び国際大学を交え改善を図っている。国際協力人材育成プログラムは、申請調書を作成する為に作ったワーキンググループにおいて、授業計画の検討を主に進め、まとまった案を教育開発・支援センターで承認をしている。国際協力人材育成プログラムのワーキンググループは、教育開発・支援センターの「教育の国際化専門部会」とは別の為、手続及びプロセスについて検討する必要がある。				

2015年度 教育開発・支援センター 自己点検・評価報告書報告書

基準 4 教育内容・方法・成果 4. 成果

点検・評価項目 <small>◎…法令等の充足を評価する項目です。 ●…学部等が掲げる方針や目標の達成状況を評価する項目です。</small>	現状の説明 <small style="color: red;">C列の点検・評価項目について、必ず記述してください</small>	評価		発展計画		
		<small>効果が上がっている点 F列の現状から記述</small>	<small>改善を要する点 F列の現状から記述</small>	<small>「効果が上がっている点」に対する発展計画 G列における伸張項目</small>	<small>「改善を要する点」に対する発展計画</small>	
				<small>(当年度・次年度対応) H列にあれば記述</small>	<small>(中長期的対応) H列にあれば記述</small>	
(1) 教育開発・支援センターにおける課程修了時における学生の学習成果指標の開発と成果の測定について						
a ●課程修了時における学生の学習成果を測定するための評価指標を開発し、適切に成果を測るよう努めているか。	教育効果を測定するための評価指標の開発については、グローバル人材を育成する科目群である「国際協力人材育成プログラム科目」については、教育開発・支援センターの下の「教育の国際化専門部会」において開発したルーブリックによる学習成果の測定を行っている。					
b ●学習成果の「見える化」（アンケート、ポートフォリオ等）に留意しているか。	授業改善アンケート結果報告書を各学部長・大学院長宛に送付するとともに窓口で閲覧できるように依頼している。					

2015年度 教育開発・支援センター 自己点検・評価報告書

基準 10 内部質保証

点検・評価項目 ◎…法令等の充足を評価する項目です。 ●…学部等が掲げる方針や目標の達成状況を評価する項目です。	現状の説明	評価		発展計画		
	C列の点検・評価項目について、必ず記述してください	効果が上がっている点 F列の現状から記述	改善を要する点 F列の現状から記述	「効果が上がっている点」に対する発展計画 G列における伸張項目	「改善を要する点」に対する発展計画 (当年度・次年度対応) H列にあれば記述	(中長期的対応) H列にあれば記述
(1) 大学の諸活動について点検・評価を行い、結果を公表することで社会に対する説明責任を果たしているか						
a ◎自己点検・評価を定期的実施し、公表していること 【約400字】	センター委員会において自己点検・評価を実施、確認を行っている。2015年度は、2015年5月14日開催の委員会を実施した。					
(2) 内部質保証を適切に機能させているか						
a ●自己点検・評価の結果が改革・改善につながっていること ●学外者の意見を取り入れていること ●PDCAサイクルを回すための、Check (点検・評価) およびAction (改善) の具体的内容・工夫	教育開発・支援センター委員会において、自己点検・評価の方針と内容について検討し、実施化している(2015年5月14日開催)。2015年度については、検証した結果、明確になった授業改善アンケート回答率向上等の課題について、年度計画書の作成時に反映させている。					